

11月22日号で緩和ケア病棟について紹介させていただきました。今回は、終末期がん患者さんが希望する療養先でその人らしく過ごしていただくために、緩和ケア病棟に携わる医療ソーシャルワーカー(MSW)が行っている支援について知っていただければと思います。

■再発・終末期がん患者に関する療養先の選択  
再発・終末期がんと診断された場合、様々な重要な選択をする場面があります。

がん治療を終えた段階で、どこで療養するかが重要な選択のつとなりです。  
①住み慣れた自宅、②医療に特化した介護施設、③緩和ケア病棟を有する

病院など、患者さんやご家族の希望、医療処置を受けられる環境によって選択肢が変わります。  
緩和ケアに携わる医療ソーシャルワーカーは、患者さんやご家族のお話を聞いて、制度やサービスなどの情報を発信し、今後の療養先を選択できるよ

うに支援を行っています。  
■まずは相談から  
住み慣れた自宅での生活を継続するためには、何が必要でしょうか。ご家族の協力が必要となることは言うまでもありませんが、少しでも長く自宅での療養を継続するためには、専門的なサービス等を用いることが重要になります。そのつが介護保険です。高齢者に特化した制度と思われがちですが、がんの診断を受けていれば40歳以上の方であれば申請できます。申請は市町の介護保険課や総合支所や出張所が窓口となります。家族や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所のケアマネージャーでも代行は可能です。申請後は本人からの聞き取り調査、医師の意見書などにより要介護度が決まります。結果が出るまでに少し時間を要しますが、それまでも①排泄や入浴などの介護サービス、②訪問看護による病状の確認や医療処置、③福祉用具のレンタル、④小規模な住宅改修なども一部利用は可能です。

## 知って得 医療・介護

藤田医科大学七栗記念病院  
医療ソーシャルワーカー  
平山 隆茂



### 22 緩和ケアにおける医療ソーシャルワーカー(MSW)の役割

サービスの調整はケアマネージャーが担当しますので事前に契約や相談が必要になります。  
■緩和ケア病棟からでも退院は可能  
当院の外来には急性期病棟などで抗がん剤、放射線等の治療を終えられた患者さんやそのご家族が、がんに伴う症状緩和や入院相談のために来院されます。患者さんやご家族の入院希望により転院される場合や入院の必要が無ければ外来通院を行うことができ、自宅療養が困難となれば入院することもできます。入院後、がんの痛みなど症状緩和を図り、加えてリハビリや栄養管理を行い自宅へ退院に向け支援を行っています。地域の医療機関や訪問看護ステーション、ケアマネージャーなども連携を図り、安心して自宅で生活が出来るようサービスの提案や調整をすることが医療ソーシャルワーカーの大きな役割となります。